

# おかげさまで 200号 となりました。 情報共有を目的に発行を続けてまいります。

## このように変わりました(市の主な統計)

		2018年	2013年	2008年	2003年	1998年
人口密度	1km <sup>2</sup> 当たり	9,470人	9,768人	9,817人	10,122人	10,385人
世帯人数	1世帯平均	2.1人	2.2人	2.3人	2.5人	2.6人
出生	1日に	4.4人	5.2人	5.6人	6.3人	7.5人
死亡者	1日に	6.6人	5.6人	5.3人	4.6人	4.4人
転入	1日に	19.1人	20.5人	25.3人	27.9人	31.4人
転出	1日に	22.9人	23.7人	26.4人	34.7人	40.7人
結婚	1日に	2.6組	3.2組	3.7組	3.8組	4.7組
離婚	1日に	1.3組	1.5組	1.6組	1.8組	1.6組
高齢化率	(%)	29.18	25.1	20.40	15.0	11.07
市職員	1人当たりの市民数	205人	199人	152人	125人	110人
先生	1人当たりの児童数	16.1人	17.6人	19.7人	21.6人	21.0人
交通事故	1日に	3.1件	3.0件	3.8件	5.0件	3.7件
火災	1日に	0.2件	0.2件	0.4件	0.3件	0.3件
私鉄	乗車客は1日に	76千人		81千人		103千人
バス	乗降客は1日に	49千人		48千人		61千人
商店	1店当たりの世帯数	112世帯	65世帯	64世帯	53世帯	42世帯
製造業	1日当たりの出荷額	5億円	5億円	6億円	7億円	9億円
ガス(m <sup>3</sup> )	1日当たりの使用量	151千		168千		163千
水道(m <sup>3</sup> )	1日当たりの使用量	65千		72千		82千
ゴミ	1日当たりの排出量	182トン	266トン	275トン	306トン	337トン
郵便	1日の引受・配達数	127千通		145千通		168千通
図書館	1日の貸出冊数	2,996冊	3,004冊	2,951冊	2,591冊	2,073冊
市税	1人当たり	122,567円	115,000円	122,594円	116,000円	132,891円

5年ごとに、各項目の数字を記した表です。その項目でのトレンド(傾向)を知る上で、重要視しています。ご覧になって、納得するものもあれば、首を傾げるものもあるかも知れません。

市の人口に関係する数字は、まちづくりや市民サービスの根幹にかかわることから、非常に関心の高い数字です。

例えば、転入・転出が減少していることから、定住性が高まったと見えます。

ただ、どの世代で、どのように移動しているのかを細かく見ることで、そのトレンドに対する課題が見えてきます。

高齢化率が、20年前と比べおよそ3倍になっており、その結果、生産年齢人口での転勤の対象者が減っていることや、結婚世代の減少による転出入が減ったのかもしれない。

記載している以外の様々なデータをクロスして考えることが大事でもあります。

また、1998年以前の高齢化率は、ずっと10%以下でした。長い期間そのような環境下であれば、その感覚から頭を切り替えるのは、容易なことではありません。

その意識転換に、客観的なデータ、その比較が大きな役割を果たしてくれるものと考えています。

# 総合センター 長期スパンで考える

総合センターは、アスベストを使用した建築物です。昨年の地震により損傷を受けたことから、利用者などの安全性を確保するため閉鎖しています。

これまで、中央図書館や中央公民館などの社会教育の拠点としての位置づけであり、その機能回復が望まれています。

3月予算において、今後、どのような対策がとれるのかを、専門家に調査を委託し、その調査結果を踏まえ、検討することとなりました。

7月に入り、専門機関からの報告書が出てきましたので、その内容についてご紹介いたします。

## 【総合センターの沿革】

- 昭和47年 ポーリング場として建設
- 昭和52年 市が床補強など大規模改修
- 平成 9年 耐震補強・大規模改修

## 【アスベストの状況】

- 発じん性（飛散性）の著しく高い吹付け材が各階の梁などに使用されている。
- その他レベルの低いものも多数あり。
- 但し、空気中濃度調査では安全性を確認済み。

## 【アスベスト対策の手法】

処理工法には「除去」「封じ込め」「囲い込み」の3通りがあるが、総合センターでは建築基準法の規定により「除去」しか方法はない。

この除去は、手作業で行うこととなります。

報告書によると、設計委託で6か月、除去工事で1年4ヵ月。それ以外に、議会での議決、入札、契約という行為で日数が必要となります。

アスベストの除去工事費用は、約4億4000万円と見積もられています。

## 【総合センターの今後の選択肢】

### ①再利用率する場合…4年6ヵ月、約33億円

1. 設計委託（6か月）
2. アスベスト除去工事（1年4ヵ月、約4億4000万円）  
工事に支障となる設備等を撤去・移動
3. 躯体の耐震診断（結果によっては、耐震補強工事が必要）
4. 原状回復工事（1年8ヵ月、約29億円）

### ②解体をする場合…3年、約8億5000万円

1. 設計委託（同上）
2. アスベスト除去工事（同上）
3. 解体工事（1年2ヵ月、約4億円）

### ③新築する場合…5年1ヵ月、約72億円

1. 設計委託・アスベスト除去工事・解体工事
2. 新築工事（2年1ヵ月、約63億円）

※工事費用は、超概算の数字です。

機械・電気設備を含む建物建設費用で備品等は含まれておりません。

どの選択肢も、活用停止期間が長くなるのが分かります。

再利用する場合の原状回復工事の約29億円は、想定外の金額です。

お金と場所の問題を度外視すると、全く別の場所で新築するという選択肢も考えられます。

公共施設全体を見渡し、スピーディ、かつ慎重に、将来と今のバランスを考え検討してまいります。

皆様方のご指導をお願いいたします。

## 住民数の変化

平成27年から30年までの4年間に、本市では6,932人の人口減少となっています。この人口減少数は、市の人口規模からすると全国的に見ても大きな規模です。

では、町丁別の住民数の変化はどうだったのか。市の統計を基に、独自集計してみました。

住民数が増えた町丁は・・・ 45

住民数が減った町丁は・・・ 130

### 【4年間で住民数が増えた上位5つの町丁】

梅が丘2丁目	316人
河北西町	167人
黒原橋町	145人
打上中町	110人
香里西之町	108人

住民数が増えた町丁は、決して駅に近いという地域ではありません。

45の町丁をみると、駅より徒歩5分圏内の町丁は少数派なのが現状です。

私なりに共通している要因を考えると、大なり小なりの開発が行われた地域と受け止めております。

梅が丘2丁目と河北西町は大規模な宅地造成が行われた地域です。

その他の町丁も、新築の建設が目立ったところであり、比較的大きな敷地を分割して分譲されたところ、古い建物を建て替えて分譲されたところが目立ちます。

### 【4年間で減少した住民数の規模と町丁数】

200人以上減少した町丁	2
100人以上減少した町丁	28

住民数の減少幅の大きい町丁の共通する内容は、1つが団地の地域です。市営・府営住宅のある地域に減少幅が大きくなっています。

2つ目に、住民数の絶対数が大きい町丁となっており、減少率では違った順位になっていると思われます。ただし、その中でも比較的古くから建築され、狭小な住宅を多数要する地域に減少が見られていることから、住宅環境の改善のための転居や、高齢化による転居が考えられます。

隣接する空き家・空き地をくっつけて土地を大きくしていくことで、良好な住宅環境に変わっていけば、この傾向を抑えることができると考えております。

## ある人の戦争体験

家族が兵隊に召集された方、残された家族による戦争への支援や生活の様子など、立場立場で大変であった戦争体験記が残されています。本市においても、市民の方々がどのように暮らしをしていたのかを綴った書籍があります。その内の一部を抜粋し、本市民の当時の機微をご紹介します。

### 【ある学校工場へ通っていた女性の体験記・抜粋】

南方の島々が占領されるようになってから、本土への空襲が激しくなってきた。

8月6日、広島に落とされた新型爆弾のことを、国鉄天王寺駅で夕刊を買って知った。火傷をおった多くの人々の写真が載っていた。

9日には長崎に爆弾が投下され、いよいよ本土決戦かと、事の重大さを感じ、一億玉砕の言葉が聞かれるようになった。

この辺（寝屋川市）には、和歌山から上陸してくるだろうが、そうなれば竹槍で進んでくる戦車に突入するという話まであった。

15日、朝礼で、今日は正午に重大放送があるから全校生講堂に集まるように言われた。玉音放送ははっきりと聞き取れなかったが、この難局を切る抜けるようにとの励ましのお言葉であろうと拝聴した。その後、日本が負けたいらしいということを知らされた。

15日の玉音放送の後には、警報のサイレンはなくなり、燈火管制が解かれた。

その夜、電気の覆いはずされ、家中がすみずみまで明るくなり、戦争が終わったのだと実感した。